

令和2年度（令和元年度対象）

教育行政事業執行状況報告書

令和2年8月
白老町教育委員会

目 次

1	点検評価制度の概要等	2
	(1) 趣旨	
	(2) 点検・評価の対象及び方法	
	(3) 提出・公表	
2	教育委員会の活動状況	3
	(1) 令和元年度教育委員活動一覧	
	(2) 令和元年度教育委員会会議	
3	表彰制度	7
4	施策成果表	8
	学校教育課	
	生涯学習課	
5	外部評価	26

1 点検評価制度の概要等

(1) 趣 旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行状況の点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出・公表することが義務付けられています。

白老町教育委員会では、法の趣旨に基づき、教育行政の事業執行状況として、教育委員会の活動状況及び事務事業ごとに評価を実施した「施策成果表」をまとめました。

(2) 点検・評価の対象及び方法

点検・評価の対象は、平成 30 年度教育行政執行方針に掲げた重点項目の主な施策、事業項目ごとに内容、成果及び課題等を示しています。

(3) 提出・公表

作成した本報告書については、議会へ報告するとともに、町ホームページ上で公表することにより、町民への説明責任を果たし、広く意見を拝聴しながら信頼される教育行政の推進に努めていくものであります。

～教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等～

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 教育委員会の活動状況

(1) 令和元年度教育委員活動一覧

日 付	活動内容	参加委員
4月2日(火)	教職員辞令交付式	全委員
4月5日(金) ～8日(月)	各小・中学校入学式	学校別に 割り振り
6月25日(火) ～ 6月27日(木)	各小・中学校訪問	全委員
7月11日(木)	北海道市町村教育委員研修会	全委員
11月23日(土)	白老町PTA連合会研究大会	全委員
11月29日(金)	第9回総合教育会議	全委員
1月12日(日)	白老町成人式	全委員
2月17日(月)	第10回総合教育会議	全委員
2月12日(水) ～13日(木)	胆振管内教育委員研修会	全委員
3月12日(木) ～19日(木)	各小中学校卒業式 ※新型コロナウイルス感染症対応のため委員の参加中止	

※教育長を除く

(2) 令和元年度教育委員会会議

第 5 回 平成 31 年 4 月 25 日	議案	第 1 号	白老町社会教育委員の委嘱について
		第 2 号	白老町スポーツ推進委員の委嘱について
		第 3 号	平成 30 年度準要保護児童・生徒の認定について
第 6 回 令和元年 5 月 15 日 (書面会議)	議案	第 1 号	教職員の退職に関する内申について
第 7 回 令和元年 5 月 28 日	議案	第 1 号	白老町教育委員会事務局組織に関する規則の一部を改正する規則の制定について
		第 2 号	平成 31 年度教育委員会所管経費の補正予算について
	報告	第 1 号	白老町教育支援委員会委員の選任について
		第 2 号	白老仙台藩陣屋跡保存活用計画策定委員会の設置について
		第 3 号	白老町みんなの基金事業補助金の内定について
第 8 回 令和元年 6 月 26 日	報告	第 1 号	平成 31 (令和元) 年度白老町準要保護児童・生徒の認定について
		第 2 号	白老町青少年センター運営委員の選任について
		第 3 号	白老町青少年問題協議会委員の選任について
第 9 回 令和元年 7 月 30 日 (書面会議)	議案	第 1 号	白老町学校給食運営委員会委員の委嘱について
		第 2 号	「平成 31 年度全国学力・学習状況調査」に関する結果公表のあり方について
第 10 回 令和元年 8 月 19 日	議案	第 1 号	「教職員が子供と向き合い、教育の質を高めるための取組」の改訂について
		第 2 号	平成 31 年度教育委員会所管経費の補正予算について
		第 3 号	令和 2 年度より使用する小学校用教科用図書の採択について
		第 4 号	令和 2 年度より使用する中学校用教科用図書の採択について
	報告	第 1 号	平成 31 (令和元) 年度白老町準要保護児童・生徒の認定について
		第 2 号	白老町青少年センター青少年指導員の選任について
第 11 回 令和元年 8 月 27 日 (書面会議)	議案	第 1 号	財産の取得について
		第 2 号	令和元年度教育行政事業執行状況報告について
第 12 回 令和元年 9 月 19 日	議案	第 1 号	「平成 31 年度全国学力・学習状況調査」に関する結果公表のあり方について

	報告	第 1 号	平成 31（令和元）年度白老町準要保護児童・生徒の認定について
第 13 回 令和元年 10 月 28 日	議案	第 1 号	教職員の事故に関する処分内申について
		第 2 号	白老町文化賞及びスポーツ賞の諮問について
	報告	第 1 号	教育委員会事務局組織の人事異動について
		第 2 号	社会科副読本改定編集委員会設置にともなう委員の委嘱について
		第 3 号	平成 31（令和元）年度白老町準要保護児童・生徒の認定について
第 14 回 令和元年 11 月 18 日	議案	第 1 号	平成 31 年度教育委員会所管経費の補正予算について
		第 2 号	令和元年度白老町文化賞及びスポーツ賞等の決定について
		第 3 号	平成 31（令和元）年度白老町準要保護児童・生徒の認定について
第 15 回 令和元年 12 月 16 日	議案	第 1 号	地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係規則の整備に関する規則の制定について
		第 2 号	白老町スクールバス運行及び管理に関する規則の制定について
		第 3 号	教育委員会事務局職員の退職について
	報告	第 1 号	白老町教育委員会教育委員の任命について
		第 2 号	白老町立学校及び学校給食における「食物アレルギー対応」について
第 1 回 令和 2 年 1 月 24 日	議案	第 1 号	平成 31 年度教育委員会所管経費の補正予算について
		第 2 号	「令和元年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査」に関する結果公表について
	報告	第 1 号	教育委員会事務局職員の人事異動について
		第 2 号	平成 31（令和元）年度白老町準要保護児童・生徒の認定について
第 2 回 令和 2 年 2 月 17 日	議案	第 1 号	令和 2 年度教育委員会所管経常費予算について
		第 2 号	令和 2 年度教育委員会所管事業費予算について
		第 3 号	令和 2 年度教育行政執行方針について
	報告	第 1 号	平成 31（令和元）年度白老町準要保護児童・生徒の認定について
第 3 回 令和 2 年 3 月 5 日	議案	第 1 号	令和 2 年度当初学校職員管理職及び学校職員の人事異動について

第 4 回 令和 2 年 3 月 25 日	議案	第 1 号	平成 31 年度教育委員会所管経費の補正予算について
		第 2 号	白老町立学校管理規則の一部を改正する規則の制定について
		第 3 号	白老町教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令の制定について
		第 4 号	「教職員が子供と向き合い、教育の質を高めるための取組」の改訂について
		第 5 号	教育委員会事務局職員の人事異動について
		第 6 号	教育委員会事務局職員の退職について
	報告	第 1 号	平成 31（令和元）年度白老町準要保護児童・生徒の認定について

3 表彰制度

教育委員会は、本町の文化・スポーツ振興等の向上発展に関し、実績の顕著な個人、団体を表彰し普及振興を図っています。

令和元年度は、次の方々が表彰されました。

文化賞

氏 名	分野
佐藤 政憲	書道

文化奨励賞

氏 名	分野
沖藤 汐華	書道

スポーツ奨励賞

氏名	分野
塩崎 昭一	キンボール
三浦 徹大	陸上（高校）
アシィ しおり	陸上（高校）
高橋 直也	陸上（高校）
須藤 龍誠	陸上（ハードル）（高校）
佐藤 匠	陸上（高校）
小野 隆一郎	陸上（高校）
大谷 大斗	柔道（高校）
原 祐稀	柔道（高校）
小林 勇心	剣道（中学）
北海道栄高等学校陸上競技部男子 4×400m リレーチーム	陸上（高校）
北海道栄高等学校陸上競技部男子 4×100m リレーチーム	陸上（高校）
北海道栄高等学校駅伝部	駅伝（高校）

学校教育課

1 学力の向上

取組の概要(目的)

基礎・基本の習得、自ら学ぶ意欲や思考力、表現力、判断力を高め、児童生徒の確かな学力の定着を図る。

実施状況

白老町スタンダード

全国学力・学習状況調査から児童生徒の課題を踏まえ、策定した学力向上の指針「児童生徒の学力向上を目指す白老町スタンダード」の推進。

成果

小学校は、国語Aでは**全国平均**、国語Bでは**全道平均**、中学校は国語Aで**全国平均**を上回った。

標準学力調査、漢字検定、英語検定

標準学力調査 : H31.4

- 小学校：小3、小4、小5（国語、算数）
- 中学校：中1（国語、数学、社会、理科）
中2（国語、数学、社会、理科、英語）

小学校、中学校ともに全国平均、全道平均を超えることはできなかった。
来年度は、実施時期の見直しや学習内容の定着状況の確認方法の見直しを行う。

漢字検定 : R1.8（小3、小5）

	3年生	5年生	総計
合格者数	83	42	125
合格率	78	68	74
受検級	7～10	5～10	

学年のレベルより高い級を受検する児童が増えている。

英語検定 : R1.10（中3）

	在籍生徒数	受検者数	合格者数
	108	92	65
合格率			71
受検級	準2級～5級		

白老寺子屋

北海道栄高校教員による数学、英語の受験対策。
基本コース：中学3年間の学習を定着させる
対策コース：入試によく出るテーマを定着させる
全6回土曜日

昨年度より受講する生徒は少なかったが、受講した生徒からは「分かりやすかった」「受けてよかった」などの意見も聞くことができた。

教員、支援員の配置

教員の加配による数学と外国語の習熟度別指導、TT指導および支援員を配置し、多様な指導体制を整備。
教員加配：白老小、白老中（算数・数学）白翔中学校区小学校（外国語）、学習支援員：各校1名

課題と今後の方向性

調査や各種検定を通して把握した課題や、日常的な授業、家庭学習を含めた放課後学習を通して基礎的・基本的な知識・技能や思考力・判断力・表現力等を確実に習得できるようにする。

2 特別支援教育

取組の概要(目的)

支援の必要な子どもの一人ひとりの教育的ニーズに応えながら、多様な学びの場の提供や支援体制の充実を図る。

実施状況

白老町特別支援委員会の実施

白老町特別支援教育基本計画に基づき、児童生徒のニーズに合わせた適切な指導や支援を行う。

成果

- 特別支援委員会部会
- ・教育支援部会（教育支援委員会）…適正な就学に向けた児童生徒の実態把握と答申
- ・特別支援学級部会…児童生徒の交流会の実施
- ・通級部会…通級指導に関する研修会
- ・コーディネーター部会…個別の指導計画の様式や活用方法の改善

特別支援教育支援員の配置

配慮を要する児童生徒の日常生活上の介助や、学習支援等を適切に行う。

- 特別支援教育支援員を小学校3校、中学校2校に配置。（8名）
- 発達障がいや学校への不適応を抱える児童生徒への細やかな支援を実施

個別の教育支援計画、個別の指導計画の策定

○個別の教育支援計画

長期的な視点で一貫して的確な教育的支援を行う。

○個別の指導計画

学校生活において障がいのある児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに対応してきめ細かい指導や支援を行う。

○指導計画作成状況

- ・特別支援学級在籍児童生徒
個別の教育支援計画… 87%
- ・通常学級在籍児童生徒
個別の指導計画… 99%
- ・通常学級在籍児童生徒
個別の教育支援計画… 59名
- ・通常学級在籍児童生徒
個別の指導計画… 60名

教職員研修会の実施

特別支援教育に関する教職員の指導力の向上に向けて、講師を招いて専門的な研修を行う。

- 専門部会実施（8月実施 10名参加）
「適切な学びの場について」
- コーディネーター部会実施（10月実施 6名参加）
「コーディネーターの役割及び合理的配慮について」

課題と今後の方向性

- ・様々な視点から児童生徒の状況を把握し対応するため、保育園・幼稚園・役場関係機関（子ども発達支援センター、子育て支援課、健康福祉課）・胆振教育局・パートナーティーチャー・児童相談所等との連携を深める。
- ・児童生徒のニーズに応じた支援を行うため、個別の教育支援計画と個別の指導計画の書式の改善や引き続き100%作成を目指すことや効果的な活用方法に関する研修を実施する。

3 郷土への愛着や誇りを育む教育活動

取組の概要(目的)

歴史や伝統文化など白老町の多様な教育資源を活用し、ふるさとへの愛着や多文化共生の心を育む取組を推進する。

実施状況

成果

ふるさと学習

町内全ての学校で社会科や総合的な学習の時間に「ふるさと学習指導モデル」に基づいた児童生徒の体験学習を実施し、アイヌの人たちの歴史や文化を学ぶ。

伝統料理	166 名 (教員 13 名)
古式舞踊	181 名 (教員 12 名)
ムックリ演奏	12 名 (教員 1 名)
文様刺繍	14 名 (教員 1 名)
調べ学習	56 名 (教員 4 名)
講 話	70 名 (教員 5 名)
合 計	延べ 499 名 (教員 36 名)

ふれあいふるさと Day

地域学習（ふるさと教育）を通して、地域社会と連携した教育活動を充実させ、学びに向かう力や郷土を愛する心など、豊かな学びを創造する。

白老小学校	地域学習、地域学習発表
萩野小学校	総合防災訓練、文化祭
竹浦小学校	地域清掃活動、昔の遊び
虎杖小学校	花壇整備、虎小まつり
白老中学校	1 日防災学校、職業体験発表
白翔中学校	ふるさと学習、 地域講座 (11 講座)

教職員研修

夏季休業期間中にアイヌの歴史と文化を教職員が学び、学校教育における指導の充実を図る。

R1. 7. 31～8. 1 開催

講 座 名	受講者数(人)
アイヌ民族の暮らしぶりを学ぶⅠ	26
アイヌ民族の暮らしぶりを学ぶⅡ	26
アイヌ文様と刺繍体験	18
カポイ(民族共生象徴空間)について	29
合 計	99

課題と今後の方向性

- ・ふれあいふるさと Day において、より多くの地域の人々が参加し、地域社会と連携した教育活動を充実へ向け、時期や実施内容を検討する。
- ・民族共生象徴空間を活かしたアイヌの歴史や文化を学ぶ学習を充実する。
- ・小中高一貫したふるさと学習カリキュラム作成に向けた体制を整備する。

4 道徳教育

取組の概要(目的)

規範意識や倫理観、命を大切にする心や思いやりと感謝の心を育み、社会の一員として互いに支え合う共生の心と豊かな人間性を育む取組を推進する。

実施状況

道徳科の授業の充実

年2回、5月、11月を「心の教育強調月間」として、設定し、児童生徒の心の醸成を推進する。

成果

全国学力・学習状況調査質問紙(全国との比較)

質問	小学校	中学校
自分によいところがある	2%	-9%
将来の夢や希望がある	+12%	+2%
学校のきまりを守る	-7%	-2%
いじめはいけないことだ	+7%	+14%
人の役に立ちたい	-1%	-4%

福祉教育、ボランティア活動の推進

子どもたちの豊かな心を育むことを目的として、特別活動(生徒会・児童会・クラブ活動)や学校行事を関連付けた取組を推進する。

○キャリア教育(職業調べ、職業体験等)
○福祉学習(認知症サポーター養成講座、福祉施設訪問、車いす体験等)
○ボランティア活動(地域清掃、共同募金、赤十字奉仕団等)

道徳的実践力の育成

「しらおい子ども憲章～ウレシパ(ともに育つ)」を具現化する取組を推進する。

○プロフェッショナル講演会

白老中	R1.10.実施
「昆虫が拓く新しい科学と技術の未来」 講師：東京大学先端科学技術研究センター 教授 神崎 亮平氏	
白翔中	R1.8.21実施
「夢と志をもって可能性に挑戦する生き方とは」 講師：(株)レバンガ北海道代表取締役 折茂 武彦氏	

○子ども夢予算プロジェクト
異学年交流、子ども憲章下敷作成、いじめ防止活動(学校オリジナルキャラクターの作成)等
○子ども実践発表会

課題と今後の方向性

- ・児童生徒の豊かな心を育むために、道徳科の指導力向上に向けた校内研修を推進し、参観日などを通して家庭や地域へ授業を公開する。
- ・道徳教育に関する体験的な学習活動を今後も実施し、児童生徒の心を育む。

5 生徒指導の充実

取組の概要(目的)

いじめ問題、不登校対応などを含む子どもを取り巻く環境改善を図り、安全・安心に学校生活を過ごせる環境をつくる。

実施状況

白老町いじめ防止基本方針の取組の推進

白老町いじめ防止基本方針を基にした各校の方針を作成し、いじめの未然防止と早期発見、早期解消を図る。

成果

○全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙
＜質問＞いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。

	小学6年生	中学3年生
白老町	92%	92%
全 国	85%	78%

全国平均よりは高いが、引き続き100%となることを目指す。

いじめ実態把握（アンケート）

町内全ての児童生徒を対象に、実態把握に向けた調査を実施し、教育相談の充実へつなげる。

○いじめ実態把握調査（児童生徒アンケート）
○いじめ問題への対応状況調査
○いじめ問題への取組状況調査
○いじめ相談電話の周知

教育相談体制の充実

スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）、教育支援センター指導員を配置し、関係機関と連携し、チーム対応の構築を図る。

○不登校対策会議の設置（年間2回）
○ケース会議の開催（随時）
○SSW、教育支援センター指導員の学校訪問
○白老町生徒指導連絡協議会（年間4回）
○「児童生徒理解・教育支援シート」による長欠児童生徒の報告（毎月）

課題と今後の方向性

- ・いじめや不登校を未然に防止するために、「いじめ未然防止プログラム」や「児童生徒理解・支援シート」を活用した指導の推進。
- ・いじめや不登校を早期発見するために、「いじめアンケート」や児童生徒の欠席日数等の資料から組織的な判断や対応を行う。
- ・いじめや不登校の解決に向けて関係機関の連携を深め、情報共有を進めると共に実効性のある対応を行う。

6 健やかな体の育成

取組の概要(目的)

心身の健康の保持増進に必要な知識技能を身に付け、子どもの体力向上と自ら健康的な生活を送ることができる健康教育を推進する。

実施状況	成果										
全国体力・運動能力、運動習慣等調査 全国体力・運動能力、運動習慣等調査から児童生徒の課題を踏まえ、策定した体力向上の指針「体力向上プラン」を推進する。	○全国体力・運動能力、運動習慣等調査 (全国平均合計点を50とした比較) <table><tr><td></td><td>小5男</td><td>小5女</td><td>中2男</td><td>中2女</td></tr><tr><td>合計点</td><td>+2.5</td><td>+1.5</td><td>-5.4</td><td>-10.7</td></tr></table>		小5男	小5女	中2男	中2女	合計点	+2.5	+1.5	-5.4	-10.7
	小5男	小5女	中2男	中2女							
合計点	+2.5	+1.5	-5.4	-10.7							
「子どもが作るお弁当の日」の実施 食育の推進と児童生徒が家族との絆を深め、将来健康的な食生活が実践できるように、発達段階に応じたお弁当作りを行う。	○各小中学校で2回実施。 いつも食事を作ってくれる家族への感謝や食材を作ってくれる人への感謝の気持ちを醸成することができた。										
望ましい生活習慣の形成 児童生徒の生活リズムを整えることによって、健康的な生活が送れるようにする。	○生活リズムチェックシートの活用 ○「早寝、早起き、朝ごはん」運動の周知 ○白老町アウトメディア123の実施 ○栄養教諭による食育授業										
ピロリ菌検査 ピロリ菌による胃の病気や予防を目指し、中学校2年生の希望者を対象に無料で実施する。	○検査実績 対象者98人のうち 受検者79人 (受検率 86.6%) うち2次検査対象者2人(陽性率3%)										
フッ化物洗口 永久歯の虫歯予防対策として、小学校児童に対して週1回のフッ化物洗口を実施する。	○永久歯の一人あたり平均虫歯数 白老町平均…0.7本 全道平均……1.0本										

課題と今後の方向性

- 各校で取り組んでいる体力向上の取組を今後も実施し、課題となっている教科や学年が全国以上の結果となるように体育授業の充実や一校一実践に取り組む。
- 児童生徒が健康的な生活が送れるよう、家庭や地域との連携による児童生徒の生活習慣の改善と運動習慣づくりに取り組む。
- ピロリ菌検査は、病気の予防や推進のためにも、受検率の増加を目指し保護者へ周知する。
- フッ化物洗口は、永久歯の平均虫歯数は全道平均よりも低く一定の効果が表れていることから、引き続き実施する。

取組の概要(目的)

衛生管理の徹底と栄養バランスを基本に、より安全安心で、よりおいしく、児童生徒に喜んでもらえる給食を提供する。児童生徒の健康の保持増進に寄与すると共に、学校給食を活用した食育の推進及び地場産品を食材とした食による「ふるさと教育」に努める。

実施状況**成果****安全・安心な給食の提供**

衛生管理を徹底し、安全安心を最優先にした学校給食の提供を行う。

学校給食における食物アレルギー対応では、専任の栄養士を配置し、学校との連携を深め、調理員へ研修を実施し、より一層の安全確保に努める。

○衛生管理研修

○災害時の避難食供給

・防災訓練：避難食 500 食供給

ふるさと教育（郷土給食/食を通じたアイヌ文化体験）

ふるさとの食材・文化を理解することで、地元への愛着や誇りを育てるとともに、地元食材の活用を図り、生産者を身近に感じることを通じて、食物に対する感謝の心を育む食育を行う。

学校給食において「アイヌ伝統食材」の提供を開始する。

○地元食材の活用

・白老産：椎茸、卵、ほうれん草、大根等

・地元農協エリア、近隣産：もやし等

○白老産食材・アイヌの食材カレンダー作成（毎月）

○郷土給食の実施(10/9)、関連資料の配布

・白老牛、生椎茸を使用した牛丼

・白老産の大根、生椎茸を使用した味噌汁

・白老産のキャベツを使用したサラダ

食育・防災に係る普及啓発、施設活用

施設見学や食育授業、通年で町民を対象に試食会などを行い、町民に身近な施設として活用してもらう。

○夏休み特別企画「パクパク探検ツアー」

令和元年度：23 人参加

○施設見学、食育授業、町民対象試食会(通年)

令和元年度：53 件（659 名）

○職業体験受け入れ（2 名）

課題と今後の方向性

○学校給食における食育を通し、食の自己管理能力、望ましい食習慣の定着を図るよう学校や家庭との連携を強化。

○2020年ウポポイ開設に併せた、アイヌ伝統食材を取り入れた給食の提供。

○「白老町学校給食食物アレルギー対応マニュアル」の見直しと修正による明確な役割分担と対応。

○給食費一般財源化に伴う歳出入の適正化と学校給食費の収納対策強化。

○ライフサイクルコストや経年変化に即した施設整備等の点検、必要な修繕の実施に伴う財源確保。

○「食品衛生法等の一部を改正する法律」施行に伴う「HACCP の考え方を取り入れた衛生管理」の徹底。

8 地域とともにある学校づくりの推進

取組の概要(目的)

保護者、地域住民が目標を共有しながら活動し、地域全体で子どもたちを育む魅力ある学校づくりに向けて取り組む。

実施状況	成果
コミュニティ・スクール 学校運営協議会を設置し、学校と保護者、地域住民等と信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組む。	○白老中学校区、白翔中学校区ともに学期ごとに1回活動方針や活動計画、学校評価など熟議を重ねることができた。 <u>※3 学期については、新型コロナウイルス感染症発生のため実施できない学校もあった。</u>
地域学校協働本部 中学校区ごとに地域コーディネーターを配置し、地域と学校が連携し教育活動を充実・進展させる取組を行う。	○放課後や長期休業中の補充学習（各小学校） ○通学合宿（白老小、萩野小） ○クラブ活動（白老中、萩野小） ○体験講座（白翔中） ○炊事遠足（竹浦小） ○地域との交流事業（虎杖小） ○図書ボランティア（白老中、白翔中） ○見守り（白老中学校区、白翔中学校区）

課題と今後の方向性

- コミュニティ・スクールを通して学校と保護者、地域住民等が一体となって学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組み、学校ごとに特色ある教育活動を実施する。
- 学校と地域コーディネーターの連携を強化し、地域の力を生かした教育活動を充実させる。

9 教職員の資質向上

取組の概要(目的)

子どもに直接関わりを持つ教職員一人ひとりがその能力を十分発揮できるよう研修等の支援を進める。

実施状況	成果
能代市教育視察訪問、報告会 全国学力・学習状況調査上位県である秋田県能代市の学力向上の取組や能代市小中学校の学校経営、授業の在り方、学力向上の取組について調査・研究し、本町の学力向上の取組や授業改善を推進する。	○能代市教育視察訪問（10/24-25） 代表団8名が、能代市立第5小・能代市立二ツ井中を訪問。 ○能代市教育視察訪問報告会(12/26) 代表団の視察報告と能代市教育委員会指導主事の講演を実施。（72名参加）
各種研修 小中の教員が公開授業を介して研究協議を行うことにより、小中の連携を意識した日常的な授業実践に生かす。	○白老町教育研究会公開研究会(11/19) 白老小学校で実施（町内全教職員が参加） ○白翔中学校区小中合同研修会(9/2)
働き方改革の推進 子ども一人一人に生きる力を確実に育むため、教職員が子どもに直接もしくは間接的に関わる時間を確保し教育の質的向上を図る。	○アクションプランの見直し、改訂 ○時間外勤務縮減に向けた取組 ・時間外勤務実態調査（年間2回） ・中学校部活動の指導体制の見直し ○スクールサポートスタッフの配置 白老小、萩野小に配置し、教職員のバックヤード業務の支援により、負担軽減につながっている。
服務規律の保持 教職員一人一人の意識高揚と不祥事を許さない学校風土を醸成する。	○胆振管内重点目標としても体罰、飲酒運転、金銭事故があげられており、教育公務員としての意識の向上を図るため、学校単位での研修を行った。

課題と今後の方向性

- 学力調査において全国と同等以上の通過率を達成するため、能代市教育視察訪問や報告会などの研修を実施し秋田型授業の質的向上を図る。
- 時間外勤務縮減に向けて、校務支援システム研修会や活用方法の実践交流会を実施することで業務の縮減を図る。
- 教職員の事故や不祥事を発生させないため、各校において服務に関する研修を定期的に実施する。また、胆振教育局主催のコンプライアンス出前講座を行う。

取組の概要(目的)

学校における危機管理体制の点検と見直しを行うとともに、他機関や関係団体と連携し、自助・共助・公助の考え方を育みながら、危機管理能力を高めるための取組を推進する。

実施状況	成果
食物アレルギー対応 食物アレルギーのある児童生徒の学校生活をより一層「安全・安心」なものとなるよう、学校・保護者・教育委員会が一体となった対応を行う。	○食物アレルギー対象者…56名 給食対応…1名 給食対応+弁当対応…3名 弁当対応……21名 ○各関係者が共通の認識のもと、個別対応を行い、安全性を最優先した給食を提供した。
各種訓練 災害や事故に対して、児童生徒自ら対応できる力を身につけられるよう各種訓練を実施する。	○危機管理マニュアル改訂 ○防災研修 しらおい防災マスター会による避難所運営ゲームを実施し、町内の教職員全体で災害時の対応について学んだ。 ○一日防災学校（白老中） 生徒が様々な知識や技術を学び、避難所の担い手となることを認識することができた。
登下校の安全確保 児童生徒が安全に登下校できるよう、関係機関との情報共有や連携した取組を実施する。	○関係機関と連携した通学路安全点検の実施 ○地域と連携した見守り活動の実施 ○関係機関と連携した不審者出沒に対応した通学路の巡回

課題と今後の方向性

- 教職員の危機管理能力の向上に向けた研修を実施する。
- 学校安全計画や危機管理マニュアルを改訂し、各校の実態に沿った計画や訓練を実施する。
- 登下校の安全確保に向けて、不審者等の情報について関連機関と共有し、効果的な安全点検や見守り活動を行う。

11 教育環境の整備

取組の概要(目的)

子どもたちの安全や適切な学習環境を確保するため、財源の確保に努めつつ、計画的な教育環境の整備を進める。

実施状況

成果

校舎等の耐震化及び大規模改修の計画的な実施

適正な改修、維持・保全に努めることで安心安全な教育環境の確保、時代とともに求められるニーズへの対応に伴う教育環境の質的向上を図る整備を実施。

施設整備

○白老中学校電気設備の更新

中学校パソコン教室の整備

コンピュータ教室の端末をタブレット端末に更新し、新たな学習指導要領に対応した ICT 授業を実施する。

○タブレット端末の購入、及び 7 授業支援システムの導入。

○タブレット端末の活用に向けた研修会を実施

小規模校の学習環境改善

小規模校ならではの教育環境や地域の特色を生かし、一人一人にしっかりと寄り添いながら授業内容の充実を図った。

○学年、学校の枠を超えた行事等の活動及び授業（芸術鑑賞・薬物乱用防止教室）

○地域との連携を取り入れた学習を実施

○複式学級第 2 黑板設置（竹浦小学校）

課題と今後の方向性

○校舎等の耐震化及び大規模改修については、整備に必要な財源の確保に努め、安全で快適な教育環境を提供するために、効率的、効果的な整備を計画的に進める。

○時間外勤務縮減に向けて、校務支援システム研修会や活用方法の実践交流会を実施することで業務の縮減を図る。

○小規模校の学習環境の課題としては、複式学級の授業環境を改善するための授業内容の改善工夫及び必要に応じ教材及び備品等の整備を進める。

生涯學習課

1 青少年、青年教育

取組の概要(目的)

ふるさとを学ぶ体験活動を通じて、自主性・社会性を育むとともに、豊かな感性と郷土愛の醸成を図り、青少年の健全育成を推進する。

実施状況

子ども夢・実現プロジェクト事業

「しらおい子ども憲章」の具現化のため、子供たちの将来の夢や希望の実現に向けた各種事業を開催。

事業名	決算	実績
①子ども夢・予算づくり	274 千円	
②プロフェッショナル講演会	300 千円	329 名
③子ども憲章実践発表会	13 千円	148 名

○

成果

○昨年度より、青少年育成大会において子ども憲章実践発表会を実施しているが、子ども憲章具現化に向けた各校の取り組みについて、地域住民にも広く周知する機会となっている。

姉妹都市の歴史にふれる旅交流事業

町内の小学校4～6年生15名が、青森県つがる市を訪問し、つがる市の児童との交流を通して、リーダーとしての資質を高めることができた。

○団体活動における協調性、社会性を育みながら、子供達の健全育成、地域の未来を担うリーダーの養成が図られた。

ジュニアリーダーコース派遣事業

道教委主催のジュニアリーダー養成事業に白老中3年生2名を道立少年自然の家ネイパル森に派遣。地域活動やまちづくりに参画する将来のリーダーを養成。

白老町成人式

新成人を含む実行委員会形式で、町青年団体連絡協議会との共催により挙行。往時を懐かしむ演出を多数取り入れた。1/12新成人128名対象のうち107名が出席。

○新成人が実行委員の一員となり、式を企画・運営することで、地域で活動する青年層とのネットワークを構築することができた。

課題と今後の方向性

○子ども憲章を具現化する取り組みについて、保護者や地域住民への認知度が高いとはいえないため、今後も周知を強化していく。

○リーダー養成後の地域での活躍の場の構築が必要である。

取組の概要(目的)

感性を磨き、豊かな心を育む多様な文化活動や芸術鑑賞機会の提供を図るとともに、町民の主体的な学習活動を促進する。

実施状況**成果****国内女性リーダー養成研修派遣事業**

管内教育委員会連絡協議会が主催する国立女性教育会館（埼玉県嵐山町）へのリーダー養成研修に実践者を派遣。（1名：8/28～8/31）先進地での学習や交流等を通じて、次世代リーダーの養成を図る。

○男女共同参画の在り方への理解を深めるとともに、他市町村の参加者と交流を深め、広域なネットワークづくりを進めることができた。

女性のまちづくりや社会参画への意欲向上に向けた講座

女性ならではの視点をもってまちづくりに参画する人材を養成することを目的に、新規事業「ハーブで手をつなぐ女性講座」を2/6に石山のカレンデュラで開催し、20名が参加した。

○地域で活躍する女性の講話や、ワークショップを通して、参加者同士のつながりの構築やまちづくりに対する意識を向上することができた。

高齢者大学事業

定例講座や学園祭、体育大会、美化活動をはじめ、書道や詩吟、陶芸、器楽、卓球など15クラブの活動により、様々な学習活動を主体的に展開。160名の学生が在籍。

○在籍数は、減少しているが、講座や行事等の規模は縮小せず実施している。クラブ活動も充実しており、複数所属している学生もいる。

白老町文化祭事業（第54回）

11/1から4日間にわたり、生け花・陶芸・工芸品等2,010点の作品が出品され、2,393名が来場。また、ステージ発表会では詩吟・民謡・舞踊等が披露された。一方、各地区でも文化祭を実施し、盛況を博した。

○鑑賞事業等を中心に、町民が芸術文化に触れる機会をはじめ、作品の展示や成果を発表する場等を提供し、地域文化の創造と振興及び意識の高揚が図られた。

課題と今後の方向性

○まちづくりに参画する人材育成のため、新たな講座の開設等、学習機会の拡充を図っていく。
○白老中学校への機能の一部移転に向けて、各クラブに対する説明や調査を行い、より望ましい移転の在り方について、今後も継続して検討する必要がある。

3 社会教育関係団体

取組の概要(目的)

社会教育団体の自主的な活動を促進し、一層の活性化を図るため、各団体の運営を支援し、連携・協力を進める。

実施状況

成果

社会教育団体への事業補助

白老町文化団体連絡協議会、白老町婦人団体連絡協議会、
(一財)白老町体育協会、白老民族芸能保存会、虎杖浜越
後踊り保存会

5 団体 13,091 千円

○文化団体、体育団体、婦人団体等への事業及び運営支援により、各団体の主体的な社会教育活動が推進された。

みんなの基金助成事業

団体が主体的に行うまちづくり活動及び社会教育活動に対する助成

9 団体 961 千円

○みんなの基金事業内容や申請方法をより分かりやすく周知するため、手引きを作成した。今年度は、家庭教育の分野において、新規の申請団体があった。

文化賞・スポーツ賞表彰事業

文化振興やスポーツ振興に貢献した個人団体を表彰し、今後の飛躍及び後継者の目標や育成に期す。

12 月 15 日実施

文化賞 1 個人

文化奨励賞 1 個人

スポーツ奨励賞 10 個人 3 団体

○全道レベルの優れた選手が育成されている。

課題と今後の方向性

○人口減少や高齢化の影響により、各団体において会員数が減少していることから、魅力ある事業の構築や活動内容の周知が必要である。

○みんなの基金事業をより広く主体的なまちづくり活動に生かしていくため、手引きなどを活用し、さらなる周知を図りたい。

4 社会教育施設

取組の概要(目的)

町民が安心して快適に利用できるよう、適切な管理運営に努め、身近な生涯学習施設としての利用促進を図る。

実施状況

成果

社会教育施設の管理運営事業

指定管理者制度の導入により温水プール及びその他体育施設 7 件の効率的な運営が図られた。

○白老コミセン(中央公民館)、竹浦コミセン、萩野公民館、虎杖浜公民館、高齢者学習センター、仙台藩白老元陣屋資料館、町立図書館、しらおい創造空間「蔵」など 11 の社会教育施設。

○温水プール、総合体育館など 12 の社会体育施設。

○萩野公民館及びスポーツ施設全般については、指定管理者による管理運営を実施。

社会教育施設の改修事業

防衛施設周辺整備事業を活用し、受電設備の改修を行い、施設の適切な運営に資する。

中央公民館受電設備改修、中央公民館地下重油タンク改修を実施。

スポーツ施設の改修事業

桜ヶ丘公園陸上競技場のトラック改修や備品の整備を行い、第 4 種の公認を更新した。

桜ヶ丘公園陸上競技場トラック改修、町民温水プール濾過材取替工事、総合体育館ボイラー修繕、町民温水プール競泳用自動審判計時装置設置修繕を実施。

課題と今後の方向性

○指定管理者による自主事業の積極的な実施、拡充等、施設の利用と活用を促進する必要がある。

○施設の老朽化が進んでおり、今後の施設の在り方について方針を示していく必要がある。

5 文化財

取組の概要(目的)

本町の貴重な文化遺産の保存と活用を図り、優れた歴史と文化を着実に後世につなぐための取組を推進する。

実施状況

成果

陣屋跡活性化プログラムの開催

陣屋跡の幅広い活用を目指した実行委員会組織により開催。

① こどもの日企画	5/5	203 名
② 陣屋の日	8/10	180 名

資料館特別展などの開催

① 武者人形展	4/20～5/6	861 名	② 白老八幡神社社宝展	6/7～30	527 名
③ ホタル観察会	8/2	21 名	④ 白老の木彫り熊とその考察展	9/7～23	1,182 名
⑤ 日本刀の輝き展	10/12～11/14	816 名	⑥ 白老郷土美術展	11/13～24	258 名
⑦ アイヌ語地名を歩く展	1/4～19	180 名	⑧ 麗しの雛人形展	2/11～3/3	150 名

白老仙台藩陣屋跡保存活用計画の策定

- ・6名の委員により3度の策定委員会を開催し計画の策定を行った。
- ・次年度に繰り越し策定作業が進行中である。

令和2年度において計画策定を続行している。

ふるさと再発見講座の開催

4年目となったまち歩き講座の実施と教材の編集発行により、ウポポイ開業に向けたガイド人材育成の基盤づくりを行った。

① 館長とまち歩き講座	5 講座	95 名
② 「ふるさと再発見シリーズ」の発行	No.4「アヨロの大地」	2,000 部

おもてなしの心をもったガイド人材育成の基盤づくりと郷土の魅力を再認識することができた。資料館友の会の会員数が18名増え25名になった。

多言語音声ガイダンスシステムの導入

日本語・英語・韓国語・中国語に対応した解説システムを導入し、陣屋のより詳細な発信を行った。

白老東高校地域学講座への協力

3年生の選択授業(23名受講)において、本町の歴史などを学ぶ地域学講座を実施した。

課題と今後の方向性

- 友の会会員の新規人材確保及びガイドの養成。
- 博物館活動の推進と資料の適切な管理。

取組の概要(目的)

子どもから高齢者まで町民皆スポーツを目指し、その機会の創出に努め、町民の健康づくりを促進する。

実施状況

成果

学校開放事業

町民の自主的なスポーツ活動の場、誰もが気軽にスポーツに親しむための場として小中学校の体育館・グラウンド等を開放。

○広くスポーツを楽しみ、運動習慣の意識づけを推進することにより、町民の健康づくりに寄与している。
25 団体、延べ 12,472 名が利用。

児童・生徒の文化活動及びスポーツ大会派遣助成事業

全道及び全国大会に出場する児童・生徒への参加促進助成。

○毎年、児童生徒が全道全国大会に出場し、活躍を見せている。全道 6 件、全国 4 件に助成。

スポーツ指導員等派遣事業

団体や学校が行うスポーツ関連事業に対し、スポーツ指導員及びスポーツ推進委員を派遣して活動を支援。

○学級レク、クラブ活動等を通して、児童・生徒の心身の健全育成に寄与している。

白老町ゲーリング大会

これまで町ゲーリング大会を主催してきたスポレク推進連合会が平成 30 年度に解散したことに伴い、本年度から町教委主催として実施。

○初出場となるチームもあり、ゲーリングの普及活動を推進することができた。18 チーム 54 名が参加。

課題と今後の方向性

- 少子化などの影響から、団体競技や部活動の選択肢が少なくなりつつある。
- 学校の活動等と連動して、ゲーリングをはじめ各種スポーツの普及活動を継続していく。

取組の概要(目的)

蔵書の整備や読書機会の拡充を図り、誰もが気軽に利用できる親しみのある図書館づくりを推進する。

実施状況

移動図書館事業、本の宅配サービス事業

移動図書館車が町内 24 ステーションを 62 日間巡回し、5,955 冊の本を貸出した。すくすく 3・9 の改修工事期間は、いきいき 4・6 に巡回。来館が困難な町民 1 名に対し 19 冊の本を宅配。

ブックスタート事業

乳児検診において生後 7 ヶ月児 48 名に対し、ブックスタートパックを配布。

らっこランド、おはなしランド事業

3 歳位までの幼児と就学前から小学生を対象とした「おはなし会」を毎月開催。延べ 164 名参加。

読書感想文コンクール事業

小中学生を対象とした読書感想文コンクール。教員による審査会を開催し優秀作を対象に表彰式を施行。応募者 605 名、うち入選者 25 名。約 100 名が出席。

図書館子ども一日司書事業

小学生児童が一日司書となり、司書業務を体験。虎杖小から 2 名参加。

なかよし文庫、ふくろう文庫、団体貸出し事業

児童施設、公共施設、学校等への配本による読書環境づくり。31 施設に 6,822 冊を配備し、貸出した。

読書週間事業

4/23 から 5/31 の期間中、絵本等の資料展示やおはなし会等の関連事業を実施。11/1 から 11/4 の期間中、本のリサイクル市や各種資料展示を開催。

郷土資料コーナーの移設

アイヌ関係資料を含む郷土資料約 2,000 冊を館内中央部の書架に移設。

「図書カフェ」事業

子供の読書習慣の定着に向けた「家読」の取組として、絵本の貸出と読み聞かせ、町内レストランの協力によるピザ作り、シェフによる夢トークの開催。

成果

○移動図書館車の巡回、本の宅配サービスにより、来館が困難な町民への読書環境の充実を図った。
○アイヌ関係資料について、当館の特色あるコレクションとして積極的に公開し活用を図るための環境整備を行った。
○本に親しむ体験活動を通じて、小学生とその保護者の読書に対する意欲や関心を高めることができた。

課題と今後の方向性

○時代変化や利用者ニーズを踏まえ、町民に広く親しまれる図書館としての環境整備や事業内容の充実を図ることが必要。

○郷土資料の充実と積極的な活用促進

○蔵書冊数が施設の収蔵冊数を超過しているため、適切な蔵書管理と資料の保管場所の確保が必要。

5 外部評価

令和 2 年度（令和元年度対象）教育委員会事務の管理及び執行状況についての点検及び評価にあたって、客観性を確保するため、点検評価の方法や結果などについて学識経験を有する者の意見を聴きました。

(1) 学識経験者

氏 名	武 田 信 昭
所属等	一般財団法人 白老町体育協会監事 退職学校長

氏 名	正 本 稔 恵
所属等	退職学校長

(2) 意見聴取日等

令和 2 年 8 月 28 日（金） 場所：白老町教育委員会会議室

(3) 主な意見

①教育委員会の活動状況

会議の開催回数や内容については、社会的変化や教育行政における問題意識を持ち検討・協議が行われており、適正であると考えます。教育に関する政策は、時間をかけて取り組むことが必要です。今後も、学校、地域の要望や課題等を適切に把握し、白老町の様々な教育施策を推進してください。また、新型コロナウイルス感染症により教育行政も大きな影響を受けていることと考えておりますが、適時適確に必要な教育施策を進めることができるよう教育委員会としても積極的に意見を提案してください。

②教育委員会の施策成果について

《学校教育課》

社会で生きる力の育成として、白老町スタンダードに基づいた取組として、各種検定や白老寺子屋、学習支援員の配置など実施しています。これからの予測困難な社会を生きるためにも質の高い教育の提供やきめ細やかな指導の充実などが求められています。子ども達一人ひとりの可能性を信じ、個性を伸ばすとともに多様化する教育的ニーズへの対応や児童生徒が自らの可能性に挑戦し、夢や目標を実現できる力の育成に努めてください。

また、ウポポイを開設した本町ならではの多様な教育的資源を活用したふるさと学習や、地域と連携の深い「ふれあいふるさと Day」などの取組によりふるさと白老への愛着や誇りをしっかりと育成して頂きたいと考えます。

豊かな心と健やかな身体を育む教育の充実として、道徳教育、生徒指導の充実、健康教育の推進などを通して子どもたちが互いに尊重し、規範意識や自己肯定感の醸成に努めています。

また、豊かな心の育成には健やかな身体が必要です。体力テストの結果では小学生は全国平均より高い結果となっていますので、中学生になっても維持できるような取組を進めてください。

しらおい食育防災センターでは、地場産品を活用した郷土給食を提供し、食を通したふるさとの文化を理解することに努めております。今後も安全安心な給食とともによりおいしい給食の提供をお願いします。

地域に信頼され、地域とともに育つ学校づくりの推進として、学校と保護者、地域住民と連携する「コミュニティ・スクール」の活動の促進、危機管理マニュアルの改訂や教職員の防災研修など安全安心な学校づくりを推進しています。また、教職員の働き方改革の推進としては「スクールサポートスタッフ」の配置など行い、教員の業務負担軽減にも努められました。教職員を取り巻く社会情勢が大きく変化していく中で、教員が子供たちと向き合う時間の確保は重要であるため、今後も積極的に進めることを期待しています。

《生涯学習課》

学ぶ楽しさを実感できる生涯学習機会の充実として、ジュニアリーダー研修及び国内女性リーダー養成研修への派遣など、社会教育事業を通して次の時代を担う人材の育成に継続して取り組まれていることは評価します。このような取組は地域活動に必要な人材の育成が図られるものであり、引き続き継続した取り組みを期待します。

また、新たな取り組みとして女性の社会参画への意欲向上に向けた講座の実施については、地域コミュニティを活発にすることが期待されますので、地域の実情に焦点を充てた事業展開をこれからも実施していただきたいと考えます。

郷土を学び、郷土に親しむ文化活動の推進として、史跡白老仙台藩陣屋跡の第2次環境整備事業の計画策定が進められていることや、「まち歩き講座」を通して陣屋資料館友の会の解読ボランティアが新たに18名増加するなど、郷土文化の保存・活用に向けた取組が着実に進められていることは大変喜ばしいことと評価します。

また、文化祭をはじめとした文化団体の活動も活発に行われておりますが、組織数や加盟数が依然として減少傾向にあるとお聞きしています。活動を支援するための人材確保や育成策について、対策を検討することが急務であると考えます。

生き生きとした生活を育むスポーツ・健康増進活動の推進として、総合体育館に導入されたランニングマシン、トレーニングマシンの利用状況が大きく伸びているとのことで、今後の利活用にも更に創意工夫され、施設利用者の増加に努めてください。

一方で、多くのスポーツ施設の利用者数が減少傾向にあるとのことですが、単なる少子高齢化や人口減少が理由という押さえではなく、利用ニーズの分析をしっかりと進めるとともに、更なる利用促進に向けて、老若男女問わず、運動に取り組める環境の充実を図っていただきたいと思います。

また、スポーツ施設全般において施設の老朽化が課題であろうかと思えます。成果にもある

ように修繕、更新は行われているようですが、施設利用の今後の展望をもって必要な整備改修を図っていただき、町民や利用者に喜ばれる施設運営を目指してください。

《教育施策全般》

白老町教育推進基本計画及び令和元年度教育行政執行方針に基づき、様々な取組が着実に実施されていることを確認しました。年度末からは新型コロナウイルス感染症の拡大により取組にも様々な制限や中止を余儀なくされていることもありますが、このような困難な時こそ地域とのつながり、思いやりや感謝の心、互いに支え合ってともに生きる心を大切にすることや夢や希望、生きがいを持ち、その実現に向かって生き生きと学ぶためにも学校教育、生涯教育の役割は重要になります。

今後も学校・家庭・地域・行政が一体となって、連携・協働しながら、まちづくりの基盤となる教育を実践していただけることを期待しています。

